

「第4次教育振興基本計画」 DEARによるパブリックコメント 報告まとめ

近藤牧子(認定NPO法人 開発教育協会(DEAR)副代表理事)



DEARの ビジョン

私たちは一人ひとりが開発をめぐる問題を理解し
望ましい開発のあり方を考え
共に生きることのできる公正で持続可能な地球社会づくりに
参加することを目的として活動しています。

2022年12月の40周年を機にDEARのビジョン、ミッションと5つの目標を見直しました。

また、バリューを新設しました。改定のプロセスはこちらでご紹介しています。

VISION

共に生きることのできる
公正で持続可能な
地球社会の実現をめざします



DEARの ミッション

MISSION

「知り・考え・行動する」 グローバル・シティズンシップを育みます

開発教育は、私たち一人ひとりが、開発をめぐるさまざまな問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、共に生きることのできる、公正で持続可能な地球社会づくりに参加することをねらいとした教育活動です。

私たちの世界は、政治・経済・社会・文化的に地域や国が相互に依存し合い、つながっています。そうした世界の中で、人権や多様性、社会正義、平和、ジェンダー平等、持続可能性などに対し、私たち一人ひとりが、ローカルにもグローバルにも積極的な役割を担いつつ、自分らしく生きられる主体となることができるように、DEARは、開発教育を広め・深めていきます。



DEARの バリュー

VALUE

バリュー | 価値・姿勢

DEARの役員や職員だけでなく、会員やボランティアなどが大切にしてほしい価値や姿勢を抽象度を上げて提示しています。DEARの事業の振り返りにも活用したいと思っています。みなさんの活動の振り返りとしてもぜひご利用ください。

変わる・変える
transformation
わたしが変わり
社会を変える

参加する
**participation
and inclusion**
一人ひとりの
社会への参加を
大切にする

対話する
dialogue
お互いの意見や
気持ちを聴き合い
対話をすすめる

問う
being critical
わたしたちの
あり方・開発の
あり方を問う

つながる
solidarity
様々な人とつながり
連帯する

DEARの中期重点方針(2022-2026)

開発教育協会 (DEAR) 2022-26 中期重点方針

1

開発課題をわたしたちの
課題として捉え考える
市民性・公共性の追求

2

教育者中心から
学習者中心の教育への
教育観の転換に向かう

DEARの中期重点事業(2022-2026)

開発教育協会 (DEAR) 2022-26 中期重点事業

- 1 開発課題 (ジェンダー・貧困など) と開発教育に関する研究会の実施
- 2 成人教育・社会教育としての開発教育の推進
- 3 開発教育ファシリテーション (対話) の再考・議論の促進
- 4 教育政策に関する調査・ネットワークづくり
- 5 組織基盤強化



DEARのパブコメのポイント

① 現行の教育文化を前提としない

- ・ 教師の役割の見直し→教員の「働き方改革」に必要なのは教員業務の見直しと人員配置
- ・ 決まり事やルールに溢れる管理教育の緩和
- ・ 欠如している人権教育とセクシュアリティ教育

② 持続可能性やグローバル人材

- ・ 経済強調の国家の持続可能性をより地球的課題に即した持続可能性へ
- ・ 環境教育をESDに、環境保全を気候変動に
- ・ グローバル・シティズンシップとは「外に向かう人」ではなく「内なる共生に向かう人」

③ 主体性

- ・ 強調するならば、管理・競争教育の緩和 → 「隠された正解主義」の危険性、ルールやマナーを守る教育ではなくつくる教育へ
- ・ 小手先の教育方法の問題ではなく教育観の問題

DEARのパブコメの例：

Ⅱ 今後の教育政策に関する基本的方針

(1) 2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

p.8

○グローバル化や気候変動などの地球環境問題、少子化・人口減少、都市と地方の格差などの社会課題やロシアのウクライナ侵略に要る国際情勢の不安定化の中で、一人ひとりのウェルビーイングを実現していくためには、・・・

以下、差し替え

「この社会を持続可能な社会にしていく必要がある。そのために、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、問題の根本的な要因等にも目を向け身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動をすすめる。」

経済成長や生産性の向上の強調

→文科省「我が国における『持続可能な開発のための教育』に関する実施指針(第2期)』に即す提案

DEARのパブコメの例:

Ⅱ 今後の教育政策に関する基本的方針

(1) 2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

pp.8 ウェルビーイングについて

①「精神的な豊かさや健康まで含めて幸福や生きがい」と記述しているにも関わらず、「経済水準の維持」が焦点化されている整合性の無さの指摘

→「経済水準を維持しつつ、**活力あふれる社会を実現していくため**」加筆

②「持続可能な社会の創り手の育成」はESD実施指針にある学習・教育活動であるにも関わらず、経済成長を支える「生産性の高い人材育成」に特筆されている不適切さ。子どもや教師一人一人の精神的な豊かさや健康、幸福や生きがいを最優先にした教育のあり方の方向性を(1)で記載する提案

DEARのパブコメの例：

Ⅱ 今後の教育政策に関する基本的方針

グローバル人材について

p.13

- ・「日本への愛着や誇り」 心情介入の文言の削除
- ・多文化共生にむけたグローバル教育推進明記の提案

➤ ESDの推進

(持続可能な社会の創り手の育成に貢献するESDの推進) (12頁)

ESDの推進はグローバル人材の育成にも資する取り組みとありますが、グローバルな視野を持ってローカルな課題に取り組む担い手の育成としても重要な意義があります。よって、この項目に以下、追加してください。「多くの児童生徒がグローバル、(追加、「かつ、ローカルな課題を」) 体験する機会を与えられることが求められる。」

ESDの推進はグローバルな視野を持ってローカルな課題に取り組む担い手育成に資する。多くの児童生徒学生等が、グローバルな環境を体験する機会を持ちつつ、さらにはローカルな課題とのつながりを体験する機会を与えられることが求められる。

DEARのパブコメの例： Ⅱ 今後の教育政策に関する基本的方針 ESDについて

p.13

(持続可能な社会の創り手の育成に貢献するESDの推進) (12頁)

ESDの推進は、環境・開発・平和のバランスを持った実践の推進が重要です。「持続可能な社会の創り手の育成」そのものなので、教育方針として反映させることを提案します。

記載箇所が「人材育成」の一部であったものを教育方針とする必要性
政策として「環境・開発・平和」を3点セットとする理念の必要性

DEARのパブコメの例：

Ⅱ 今後の教育政策に関する基本的方針

生涯学習について

- p.15
- ・学習保障の観点の強化の提案
- 識字調査の実施とその実態に応じた日本語教育や職業教育支援の推進
-
- ・高度専門人材育成の観点によるキャリア教育だけでなく、キャリア蓄積が困難な労働環境にある女性、移民への職業教育を充実させる提案
- p.19
- ・社会教育のアクティブ・シティズンシップ、民主的価値の推進の強化の提案

DEARのパブコメの例:

IV 今後5年間の教育政策の目標と基本施策

目標2 豊かな心の育成

p.40
-44

・道徳教育は人権教育に則るべきであり、社会的な「正義・公正」を議論する教育の推進の提案

・いじめへの対応は、校則をはじめ、そもそも子どもの人権侵害をしている学校慣習を見直す提案

→ 暴力の定義が明確にならない。学校慣習の中で独自に肯定される文化を変えなければ暴力の全面否定ができない。

・性教育の明記の提案。

→「生命の安全教育の推進」はいのちの大切さの教育ばかりが強調され、性暴力にかかるそもそも他者のセクシュアリティや尊厳を持った関係性構築の観点が完全に欠如。国際的にもかなり遅れた状態の脱却の必要性

DEARのパブコメの例：

IV 今後5年間の教育政策の目標と基本施策

目標4 グローバル社会における人材育成

p.47
-50

・人員交流という狭い枠組みでのグローバル人材概念。グローバル・シティズンシップという言葉の欠如。ESDとグローバル・シティズンシップの言葉の追記の提案。

・指標が語学(英語)ばかり、海外に対する参加ばかり

・英語に関する指標しかありませんが、グローバル社会の人材を測る指標は、言語だけではありません。

以下、追加してください。

- ・英語以外の外国語の達成率
- ・持続可能な開発に関する問題（人権、開発、平和などに関する問題）への関心の高さ
- ・グローバルな問題を身近な問題として関連させて捉えられる構造的理解度
- ・意見の異なる人との対話への関心

DEARのパブコメの例：

IV 今後5年間の教育政策の目標と基本施策

目標7 多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂

- ・特別支援教育の方針は2022年の国連勧告に基づいた計画の提案
→ 通常学級の運営方針の見直しの必要性

- ・識字調査の実施と夜間中学校支援

総括

- 課題としてみるべき箇所が多くが俎上には乗りつつある。
→しかし、「木を見て森を見ず」による整合性の不安定さ。
- ESD施策一つとってみても、他方針との一貫性がない。
→他の分野でも同様と思われる。各領域で積み重ねられている施策方針を集大成しているといえるのか。
- 国の教育方針に関わる審議会部会長が経団連副会長・・・

総括

■国際的議論や言葉遣いの反映が甘い。ESDやグローバル・シティズンシップの認識不足が著しい。

■ウェルビーイングの前面強調

OECD諸国での重視に続こうとしているが、そもそも「OECD下位・最下位」レベルの課題が多い日本が取り組むべき教育方針はそこなのか？という疑問

「獲得的要素と協調的要素を調和的・一体的に育む日本発のウェルビーイングの実現を目指す」「世界的にも取り入れられつつあり、わが国の特徴や良さを活かすものとして国際的に発信していく」(p.9)

総括

- 各地方自治体ではさらに独自の内容が加味されるはずであるため、不足している部分を補われる可能性がある。各課題で意識を持って取り組んでいる地域との格差も見込まれる。
- 学校教育に関しては学習指導要領の影響がやはり大きい
が、振興計画から動かしていける可能性もなきにしもあらず？